

九州教区 教化研修計画概要

教化テーマ「生活を聞法のために ―真宗門徒として―」

九州教区発足以来2年が経過し、2022年度をもって移行期間が終了する。本来であれば、新教区の足場固めをすべき期間であったが、新型コロナウイルス感染症によって、対面することさえ憚られる状況下においては、十分な準備ができなかったと言わざるをえない。リモート環境が整ってきたとはいえ、膝を突き合わせての語り合いもできず、組における人間関係の構築や教化の行く末を不安視する声も多い。ただ、このような思い通りにならない現実の他に、我らの生活の場はないのであるから、かかる現実直視を以て、教区教化テーマ「生活を聞法のために ―真宗門徒として―」の意味するところを、2022年度九州教区教化事業計画として表現した。

<人の交流>

この2年間、十分な準備ができなかったとはいえ、九州教区の教化活動においては、教区人の自覚に基づく「人の交流」を基本とすることに変わりはない。教区、組、各寺院の組織的連携といった側面と教化の課題的側面によって活発な交流がはじまることを願う。組間・寺院間の密接な交流を築き、たとえば青少幼年教化や解放運動に学び、人と人が水平に出会っていく取り組みを展開する。

なお、今年度春にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」は「人の交流」をさらに進める機縁となる。慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の心を憶念しつつ、生活を聞法のためにする歩みこそ、地道な教化活動を継続していく要となるであろう。

<僧侶の学び>

得度受式者講習や新任教師研修等の教師としての自覚的な学びの場を開催する。儀式声明や教化伝道、教学の研鑽は日常の法務の実践をとおして、やがて世法と仏法のせめぎあいの中に身を置く門徒との共なる学びの場となることを期す。ここにいう「学び」とは聞法を生活の基本とする自己の学びであり、日々僧侶としての基本に立ち返る自己研鑽である。

<組教化の支援>

寺に身を置く者と門徒が共に真宗門徒として出あい、各寺院が寄り合い談合の場となることを通して法義は相続される。それは、各寺院に留まるものではなく、やがて寺院間、組間の緊密な連絡関係を生み出していく。この展望を含めた教化の在り方こそ「組を基軸とする教化」であろう。もとより「組を基軸とする教化」は、教区・組の改編当初より目指してきたことであるが、そのためには組に任せきりにするのではなく、教区としての支援が必要であろう。具体的には、アンケート結果等を踏まえ、組や寺院などの現場の状況に応じた柔軟な取り組みを展開したい。

以上